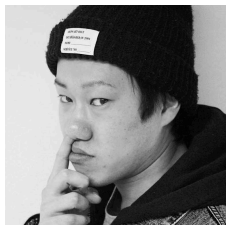
アプリオリ



進藤将人
建築設計計画研究室

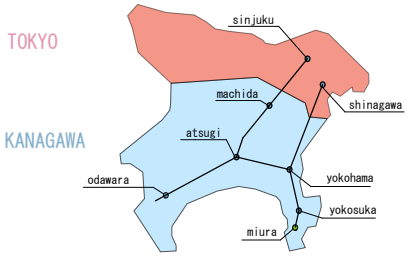
Concept

私が育った三浦市は神奈川県の南東部に位置し、豊かな自然に囲まれ、農業や漁業が盛んな場所です。三方に海に囲まれ、夏になると観光客で海は賑わいます。しかし、現在三浦市では人口問題、財政問題とたくさんの問題があります。またマグロ漁業の規制や農業のTPP問題など三浦市の収益は2013年度には激減しています。私が生まれ育った三浦市をもっと伝えたいという想いから三浦市の町おこしを考案しました。

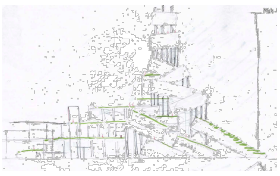
Program

敷地は金田湾という場所で三浦市のドライブコースの場所に位置します。以前は朝市場を行ったり三浦市の地魚を中心にしたレストラン、漁協販売所があり、特産物の販売、イベントを駐車場で行っていました。三浦市の良さを知ってもらうには体験できるプログラムを含めることがアピールになり、ここに敷地を決定しました。今回、三浦市の良さや伝統文化を知ってもうために地域復興施設として道の駅を考案しました。

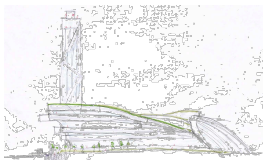
三浦市のドライブコースの
主な方向



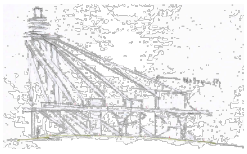
Diagram



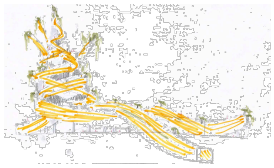
三浦市にシンボル的要素を取り入れた施設。使われないコンテナを組み立てようとしてみた。



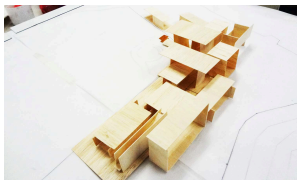
昔、捕鯨文化が三浦市にもあり
そこから形どったスケッチ



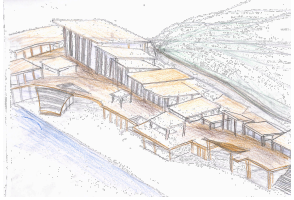
スタディしていくうちにボニューム感が敷地には合わないと感じ始める



三浦市の自然の中へ招くように



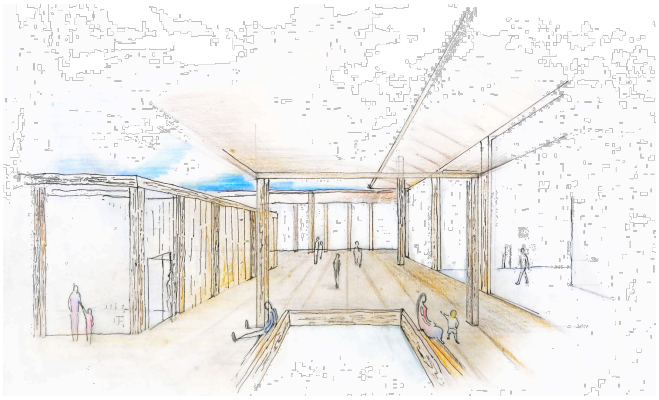
木造と視覚的なボニュームの抑えのため「木の隙間」を見せ、重さを軽減させる。



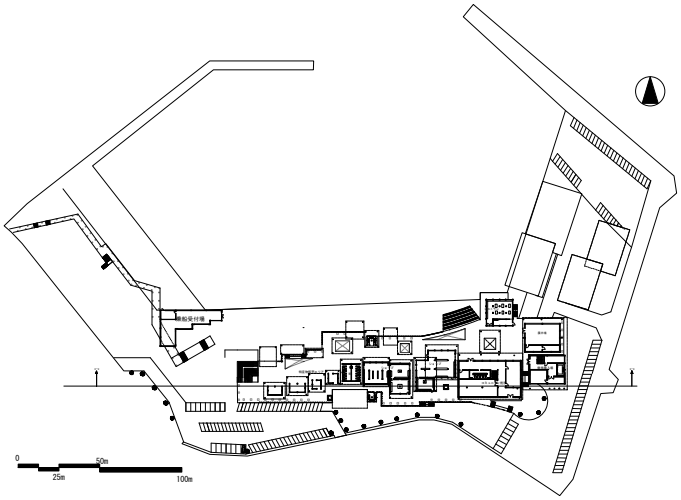
道の駅とコミュニティセンターの
複合施設の提案

Design

建築として主体はRC造木造の仕上げで、屋根の重なりから奥まで見えるように隙間を生み、建物としてのボリュームを視覚的に落とすことを考えました。木造の仕上げと斜めになっている屋根の重なりから海の波を思わせるように設計しました。波に任せ歩いていくと広場があり、三浦市の特産物を販売しているショップや、コミュニティセンターやレストラン、漁協の仕事が見えるようなランドスケープになっています。

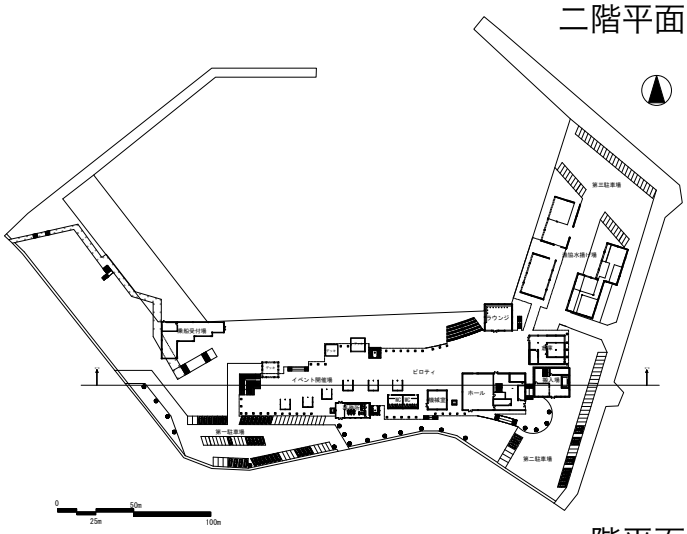


豊かな自然が多い三浦市では、日帰り観光客や自動車で観光する観光客が多い。そこで公道のドライブコースの途中に観光案内所と地元住民の憩いの場を設ける。観光客と地元住民のコミュニティ場を設けることで地元の魅力の声を聞く事が出来る。



二階平面図

道路側に当たる方から見たときに隙間から人の交差する部分が見えるように横の隙間を生み、三浦の自然の木々が交差する場所を表している。



一階平面図

公園に当たる部分では船を上から見渡せるように浜辺からランドスケープを設計しました。私有の船があり、海に出て体感できるように、また海釣りを行えるようになっています。

。
コミュニティセンターでは三浦市には多くの老人施設があり、授業の一環として小中学生が触れ合うことが多いこともあり、ここで一つのコミュニティを作りました。

イベント施設では、以前は海にステージを建て海で行うということが多かったので風が強いということだけで中止になるということもしばしばありました。もっとしっかりした環境下で行えるように、尚且つ海を体感してもらえるようにしました。

北側断面図